



決算説明会

2007年3月期第3四半期

2007年2月1日

ミネベア株式会社

連結業績ハイライト

(百万円)	2006年3月期	2007年3月期	前年同期比 伸び率	2007年3月期通期	
	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計		通期予想	3Qまでの 進捗率
売上高	236,687	247,330	+4.5%	324,000	+76.3%
営業利益	13,267	19,976	+50.6%	28,000	+71.3%
経常利益	10,016	16,442	+64.1%	22,000	+74.7%
税引前利益	8,899	16,189	+81.9%	21,000	+77.1%
当期純利益	4,821	11,677	2.4倍	13,500	+86.5%

為替レートの変動 06/3期1Q-3Q → 07/3期1Q-3Q
 US\$ 111.66円 → 115.96円、タイパーツ 2.74円 → 3.08円 US\$ 40.75タイパーツ → 37.65タイパーツ

2007年2月1日

1



2007年3月期第3四半期累計の連結業績は、売上高 2,473億3,000万円、営業利益 199億7,600万円、純利益116億7,700万円となりました。

前年同期に比較して、売上高は4.5%増、営業利益は50.6%増、純利益は2.4倍と、大幅な増収増益となりました。

3Q連結業績ハイライト

・タイパーツ高、一部事業の悪化による業績改善の鈍化

(百万円)	2006年3月期		2007年3月期		前年同期比	前四半期比
	3Q	2Q	3Q	3Q	伸び率	伸び率
売上高	80,948	83,797	83,332		+2.9%	-0.6%
営業利益	6,043	7,509	6,609		+9.4%	-12.0%
経常利益	4,694	6,234	5,495		+17.1%	-11.9%
税引前利益	4,474	5,909	5,075		+13.4%	-14.1%
当期純利益	2,400	4,180	4,209		+75.4%	+0.7%

為替レートの変動 06/3期3Q → 07/3期3Q
 US\$ 116.21円 → 117.36円、タイパーツ 2.83円 → 3.18円、US\$ 41.06タイパーツ → 36.91タイパーツ

2007年2月1日

2

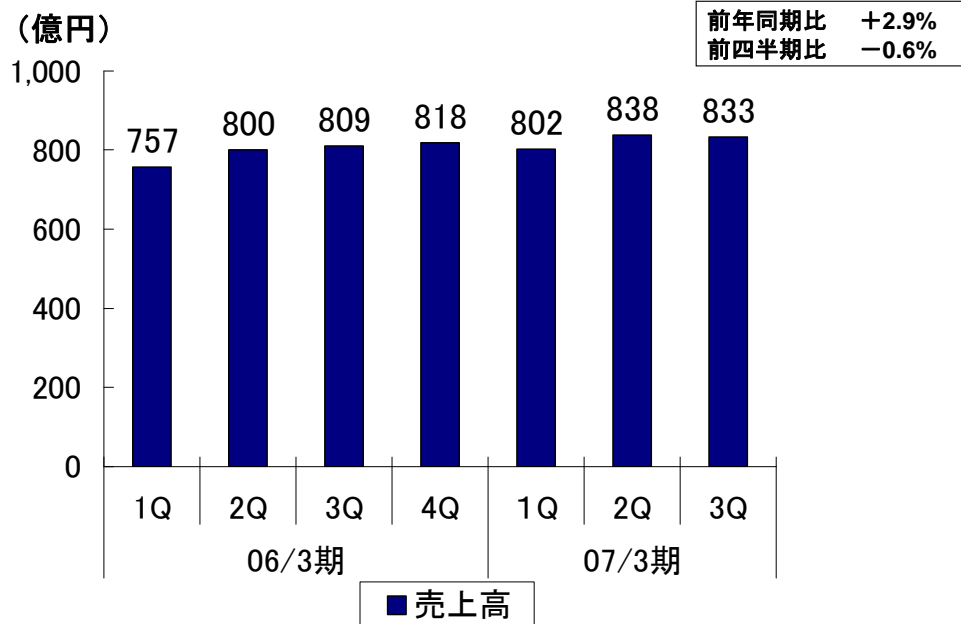


2007年3月期第3四半期の連結業績は、売上高833億円、営業利益66億900万円、純利益42億900万円となりました。前年同期に比較して、売上高は2.9%増、営業利益は9.4%増、純利益は75.4%増と、収益が増加しました。

一方、前四半期に比べると収益が低下しており、業績改善が鈍化しました。この主な要因はタイパーツ高と、HDDスピンドルモーター、スピーカー事業など一部事業での収益悪化です。これについては、後ほどご説明いたします。

四半期推移

売上高



2007年2月1日

3

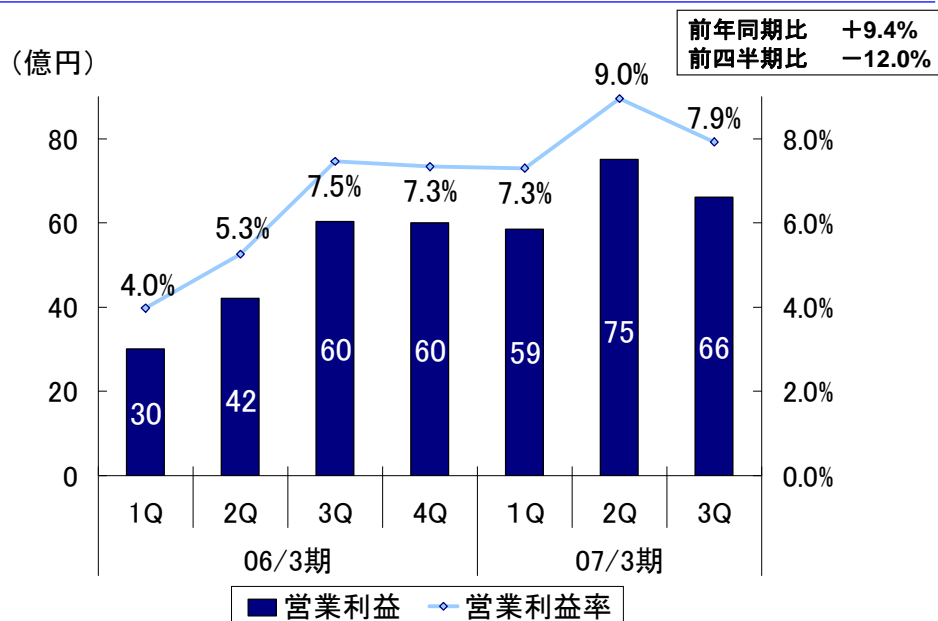
Minebea

これは、売上高の四半期ごとの推移です。第3四半期の売上高は833億円と、前四半期比で0.6%減とわずかに減少しましたが、前年同期比では2.9%増加しています。

為替の影響は、前年同期比で+22億円、前四半期比で+12億円となりました。

四半期推移

営業利益



2007年2月1日

4

Minebea

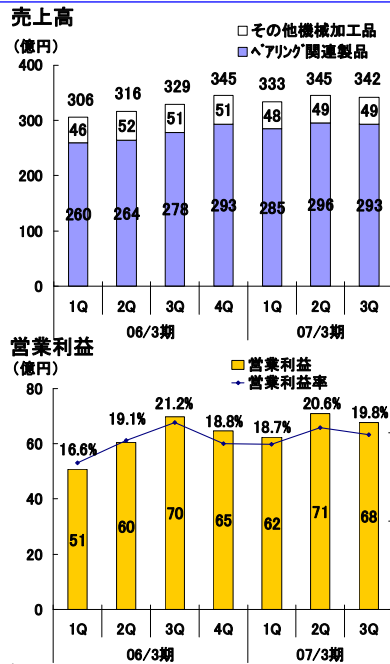
これは、営業利益の四半期ごとの推移です。

第3四半期の営業利益は66億円となり、前年同期比で9.4%増加しましたが、第2四半期の75億円からは9億円、12%の減少となりました。このうち、機械加工品セグメントで3億円の減少、電子機器セグメントで6億円の減少ですが、製品ごとの状況は後ほどご説明いたします。

第3四半期は、当社が主要生産拠点とするタイを始めとするアジア圏の通貨が、対USDドル、対円で急ピッチで上昇したことにより、収益へのマイナスの影響が大きくなっております。

セグメント別

機械加工品事業 売上高・営業利益



2007年2月1日

ミニチュア・小径ボールベアリング

売上高 前年同期比 +4.6%

前四半期比 -3.0%

3Qはクリスマス休暇の影響あったが、需要は堅調

生産能力を月産1億9千万個へ拡大済み

ロッドエンド&スフェリカルベアリング

売上高 前年同期比 +9.0%

前四半期比 -1.3%

3Qはクリスマス休暇の影響あったが、航空機向けに引き続き旺盛な需要

ピボットアッシー

売上高 前年同期比 +4.7%

前四半期比 +5.0%

HDD市場の成長を受けて数量拡大

5



機械加工品事業セグメントの状況についてご説明いたします。

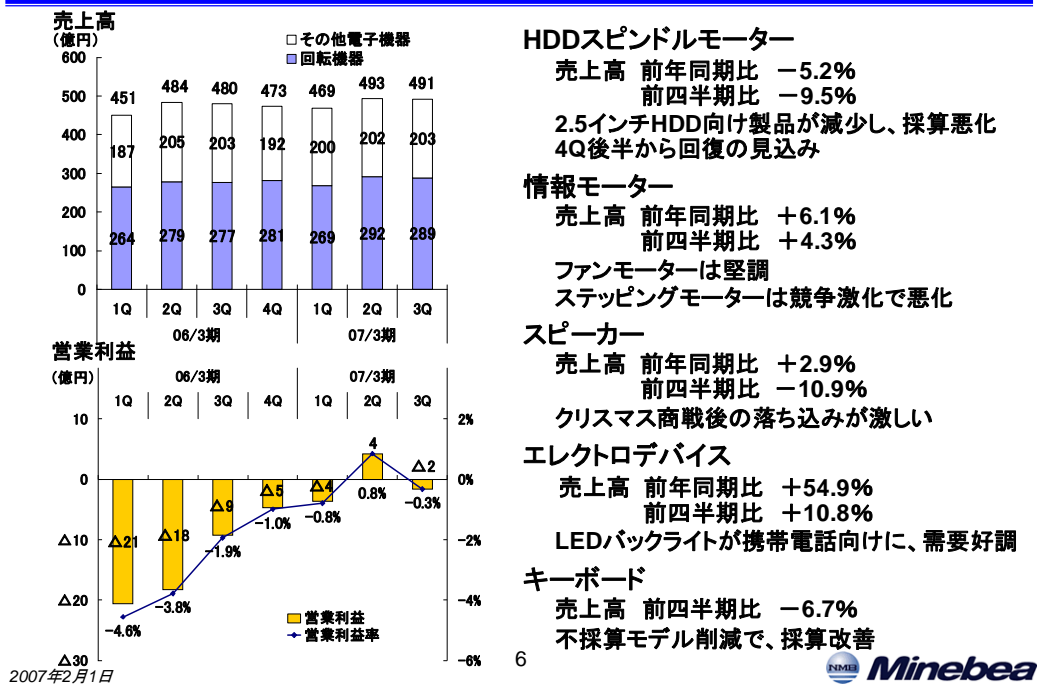
まず、ミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、売上高は前年同期比4.6%増、前四半期比3.0%減となりました。社内使用と合わせた販売個数は月1億7,800万個で、前四半期比1,000万個減少となりました。これはピボットアッシー向けの社内使用が在庫削減のため一時的に減少したこと、欧米のクリスマス休暇による12月の落ち込みが大きかったためです。しかし、今後とも世界のミニチュアベアリング需要は好調に推移するとの見方は変わらないため、生産能力月産1億8,000万個を昨年中に1億9,000万個へ引き上げました。第4四半期には販売は再び増加すると見込んでおります。

ロッドエンドなど航空機用ベアリングは、引き続き世界的な航空機生産の好調を受けて受注好調なもの、第3四半期は欧米のクリスマス休暇があったため、売上高は前四半期比1.3%減となりました。第4四半期以降は、旺盛な需要に確実に応えるべく、生産数量の増加に努めるとともに、航空機メーカーの新規モデルへの受注活動を積極的に進めていきます。

HDDに使用されるピボットアッシーは、売上高は前年同期比4.7%増、前四半期比5.0%増となりました。PC向けだけでなく、HDDレコーダーやゲーム機向けの伸びによりHDD市場が伸びたため、ピボットアッシーの第3四半期販売数量は月2,340万個と第2四半期から5.9%増加しました。第4四半期以降についても、引き続き単価動向は厳しいものの、販売数量は着実に増加すると見込んでおります。

以上により、機械加工品事業セグメントの売上高は342億円、営業利益は68億円となり、営業利益率は19.8%となりました。前四半期と比べ営業利益が3億円減少した主な要因は、ボールベアリングとロッドエンドでの売上減少、ピボットアッシーでのUSドル安タイパーツ高の影響です。

セグメント別 電子機器事業 売上高・営業利益



電子機器事業セグメントの状況についてご説明いたします。

HDDスピンドルモーターの売上高は、単価の高い2.5インチHDD向け新モデルの承認の遅れにより販売数量が減少したため、前四半期比9.5%減となりました。これは第4四半期にも影響が若干残ってしまうことから、本格的な回復は第4四半期後半からと見込んでいます。また、生産拠点であるタイのパーツ高ドル安の影響もありました。第3四半期は赤字となりましたが、引き続き、通期黒字化を目標に、収益改善に取り組んでいきます。

情報モーターでは、売上高は、前四半期比4.3%増加しました。利益面では、競争激化によりステッピングモーターが悪化しましたが、需要の強いファンモーターは堅調で、振動モーターとDCブラシ付きモーターも改善が見られた結果、ほぼ第2四半期と同レベルの利益を確保しました。今後は、引き続きファンモーター、振動モーター、DCブラシ付きモーターでの改善によって、通期の黒字化を確実なものとし、収益成長につなげていきたいと考えています。

スピーカーの売上は、前四半期比10.9%減少となりました。これは、クリスマス商戦向けが終わった後の落ち込みが激しかったためで、加えてタイパーツ高の影響もあり、赤字となりました。

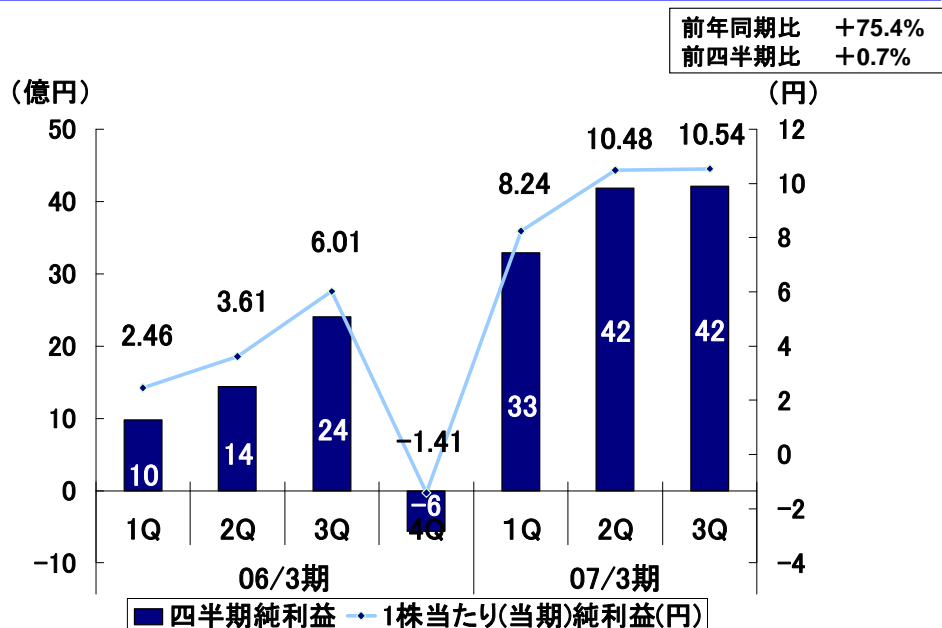
エレクトロデバイスでは、高輝度・超薄型LEDバックライトが携帯電話向けに需要好調で、売上が前年同期比54.9%増加、前四半期比10.8%増加となり、ほぼ第2四半期と同レベルの利益を確保しました。第4四半期については、海外を中心に携帯電話市場の伸び鈍化が見込まれており、ある程度の季節的な調整は避けられないと想定しておりますが、4月以降発売予定の新製品と、第4四半期に参入予定のカーナビ向けLEDバックライトの伸びにより、今後とも成長を目指していきます。

また、事業構造改革施策を着実に実施しておりますキーボードでは、不採算モデルの生産削減を着実に進めた結果、売上高は、前四半期比6.7%減少となりましたが、収益は改善しました。

以上により、電子機器事業セグメントの売上高は491億円、営業損失は1億5,900万円となりました。

四半期推移

当期純利益



2007年2月1日

7

Minebea

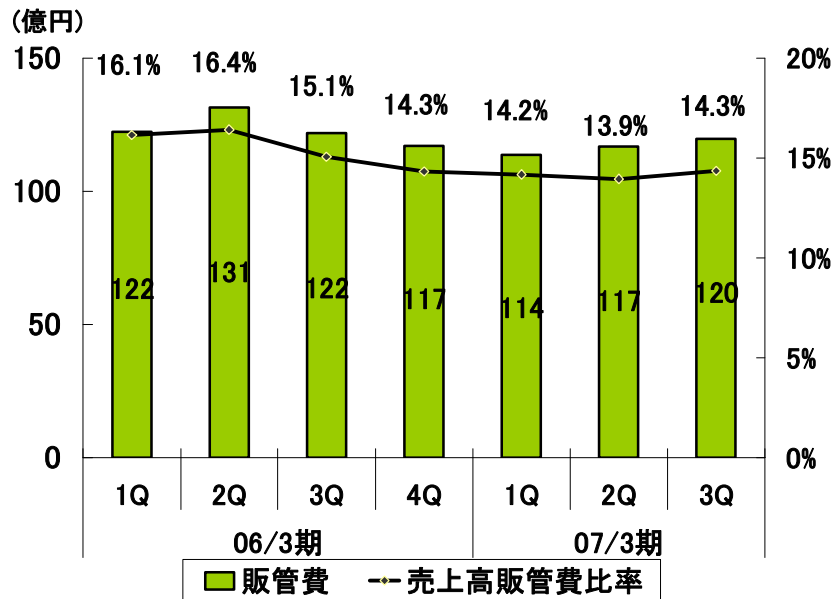
これは当期純利益の四半期ごとの推移です。

第3四半期は、特殊要因として海外での税金還付があったため、42億900万円、一株当たり10.54円と、前四半期比では横ばい、前年同期比で大きく増加しました。

来年度以降の実効税率については、30から35%程度の当社にとってノーマルな水準へ低下していくと考えています。これは、一部事業におけるこれまでの赤字、繰り延べ税金資産の償却などの理由から、これまでは当社の実効税率は比較的高い状態が続いていましたが、そういった事情も徐々に解消に向かっているためです。

四半期推移

販管費



2007年2月1日

8

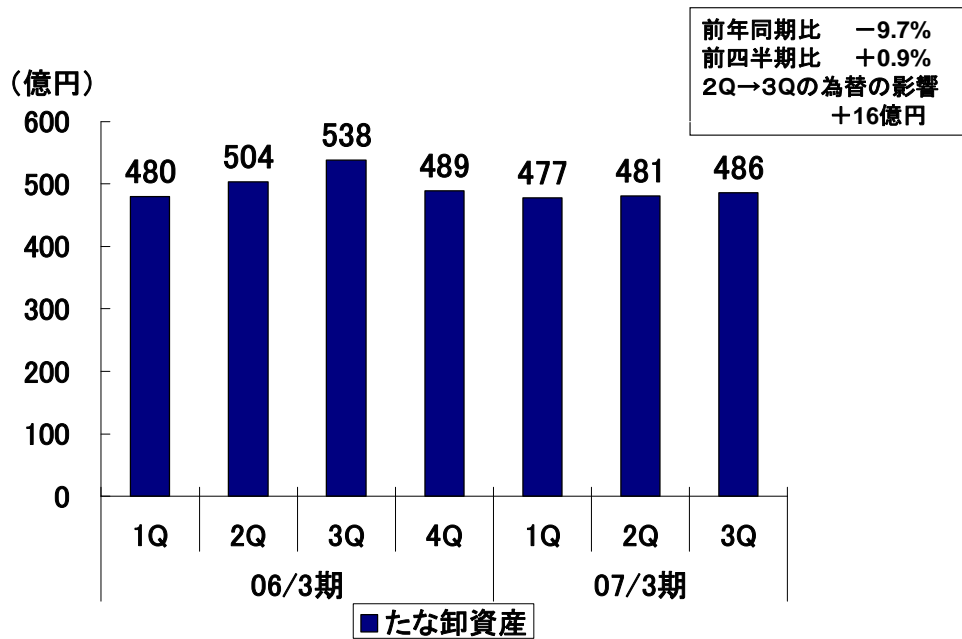
Minebea

販管費の四半期ごとの推移です。

第2四半期と比べて3億円増加し、120億円となりました。第3四半期も引き続き、販管費および経費の抑制に努めてまいりましたが、結果として若干増加してしまった主な理由は円安によるものです。

四半期推移

たな卸資産



2007年2月1日

9

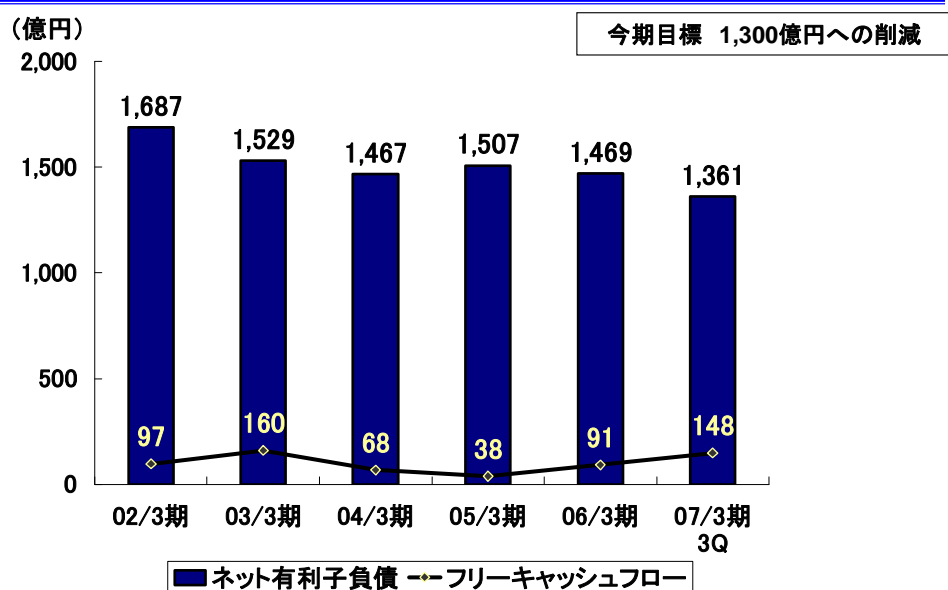
Minebea

これは、たな卸資産の四半期ごとの推移です。

第2四半期に比べ5億円増加しましたが、円安の影響で16億円増加しております。

年推移

ネット有利子負債



ネット有利子負債：有利子負債合計－現預金
フリーキャッシュフロー：営業活動CF＋投資活動CF

2007年2月1日

10

Minebea

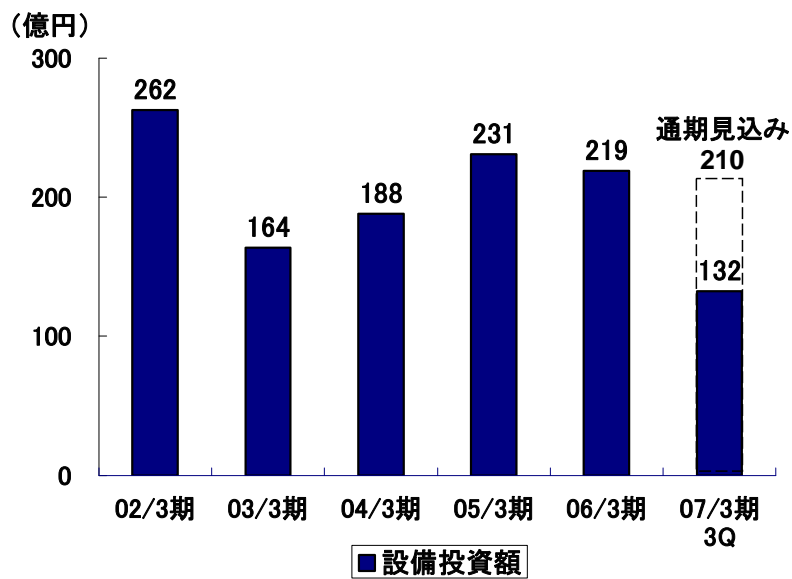
このグラフは有利子負債の年ごとの推移です。

第3四半期末における、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債は1,361億円と、前期末から108億円の減少となりました。但し、前四半期末と比べるとほぼ横ばいでした。これは、季節要因として賞与の支払いがあったことと、円安の影響で10億円増加したことが主な要因です。

今後も、今期の重要目標であるネット有利子負債残高1,300億円への削減に向けて、努力を続けてまいります。

年推移

設備投資額



2007年2月1日

11

 Minebea

これは、設備投資額の年ごとの推移です。

通期予想210億円に対し、第3四半期累計の設備投資額は、132億2,000万円でした。主な投資はボールベアリング、ロッドエンド事業などでの増産投資、スピンドルモーター事業などにおける合理化投資です。

業績見通し

中間決算時の見込みを変更しません

(百万円)	2006年3月期		2007年3月期予想			前年比 伸び率
	通期	上期	3Q	下期予想	通期予想	
売上高	318,446	163,998	83,332	160,002	324,000	+1.7%
営業利益	19,269	13,367	6,609	14,633	28,000	+45.3%
経常利益	14,595	10,947	5,495	11,053	22,000	+50.7%
税引前利益	9,620	11,114	5,075	9,886	21,000	2.2倍
(当期)純利益	4,257	7,468	4,209	6,032	13,500	3.2倍
一株当たり(当期)純利益	10.67	18.72	10.54	15.11	33.83	3.2倍

為替レート 06/3期実績 → 07/3期想定
(US\$ 113.09円 → 115.05円、タイパーツ 2.79円 → 3.03円)

2007年2月1日

12



以上の結果を受け、今期の業績予想は変更しません。

現段階では、タイパーツ高と一部事業の収益悪化によって、営業利益については下期計画達成のハードルは上がったと考えていますが、引き続き来年度以降の利益成長を視野に入れながら、下期計画の達成に向け、尽力してまいります。

但し、引き続きタイパーツを中心とするアジア通貨高の動向、世界景気動向などは主要なリスクとして注視していきたいと考えています。

キーボード事業構造改革の進捗状況

実行計画に従い、着実に実施中

生産数量は約1/3、売上は約半分へ + 固定費大幅削減
⇒ 3月の月次収支均衡を目指す

1. 不採算モデルの削減

生産数量は計画通り減少中

- デスクトップ用不採算モデルからの撤退
- 今後成長の見込めるノートPC用と無線LAN機能付などの高機能製品への集中

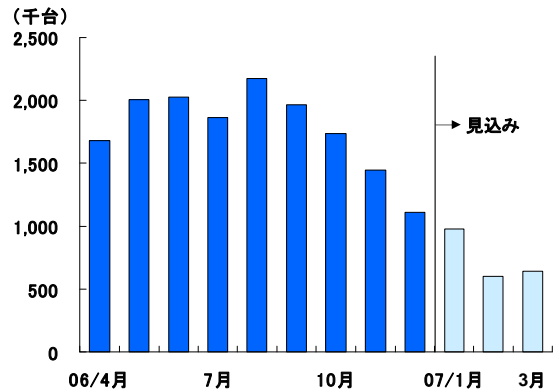
2. 人員の削減

上海生産拠点での従業員数:
3,455名(5/2006)→ほぼ半減へ

3. 生産設備の削減

上海生産拠点での生産ライン数:
28(期初)→14(2月末)

キーボード月次生産数推移



2007年2月1日

13

Minebea

最後に、キーボード事業構造改革の進捗状況につき、ご説明いたします。

昨年4月に発表した大幅な事業構造改革施策について下期からは、いよいよ実行の段階に入っております。来期以降の黒字化にメドをつけるため、今年度の最後の月であります3月に月次ベースの収支均衡を達成することを目標に、不採算モデルの削減による生産数量の約1/3への減少と大幅な固定費削減を目指しております。

これまでのところ、グラフにあるとおり、デスクトップ用不採算モデルからの撤退により、生産数量の減少が着実に進行中です。第4四半期中には人員と生産設備の半減による固定費大幅削減を実行いたします。

この事業構造改革が終了した来期以降については、単価が高く市場の成長が見込めるノートPC向けや無線LAN機能付などの高付加価値キーボード製品へ集中することによって、まず黒字化を現実のものとし、次に、利益成長を狙っていきます。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。